



## いちょう並木の台風被害と復旧によせて

すっかり秋らしくなり、御堂筋のいちょう並木もようやく黄葉しはじめてきています。御堂筋をそぞろ歩くのにはとても心地よい季節となりました。御堂筋オータムギャラリー2018も11月25日まで開催しています。みなさま、お仕事の行き帰りやお昼休み、週末の散策など、是非、秋の御堂筋をそぞろ歩いてみてください。

さて、今夏は大雨や台風が続き想像を上回る自然の猛威を体験することとなりました。9月4日に関西を直撃した台風21号では御堂筋のいちょう並木も倒木や枝折れするなど大きな被害を受けました。

管理者による被害状況の調査と懸命な復旧対応が続いておりますが、折れた枝の処分や、植替えに見合う生育した木の手配、夜間の限られた時間帯での復旧作業など復旧への課題も多く、完全に回復するにはしばらく時間がかかるとも言われています。

そうした中、大阪・関西の発展に永年尽くされ、“人と自然と響きあう”との理念を掲げるサントリーホールディングス株式会社様が、御堂筋（淀屋橋交差点から難波西口交差点の区間）のいちょう並木の復旧のため、大阪市へ約五千万円相当の寄附をされたというニュースは、大阪・御堂筋の象徴であるいちょう並木を大切にみんなで守り、大阪、関西の活力を高めていこうという結束力と、地域への愛情を感じるメッセージとして広く届けられています。

御堂筋のいちょう並木には、1945年3月14日の大阪空襲で一夜にして御堂筋沿道の建物の多くが焼失する中、火傷を負いながらも生き抜き、今も生き生きと葉を茂らせている木々があります。今回の被害も乗り越え、貴重な地域資源を次代へつないでいこうという大阪の人々の想いを感じながら、御堂筋まちづくりネットワークとしても、市の指定文化財であるいちょう並木の生育を見守り続け、いちょうの木陰でくつろげる空間づくりや、いちょう並木のある風景の魅力を発信し続けていきます。

2018年11月  
一般社団法人御堂筋まちづくりネットワーク